

第7回道の駅あらお（仮称）基本構想等策定委員会 議事録要旨

日 時：令和 2年 3月13日（金） 14時00分～15時40分

場 所：荒尾市役所 31号会議室

議 題：1. 前回（第6回）委員会について

2. 道の駅あらお（仮称）基本構想（案）について

（1）パブリックコメントの意見等について

（2）パブリックコメントを踏まえた基本構想（案）について

3. 来年度以降の進め方について

4. その他

出席者：波積真理委員長（熊本学園大学教授）、山代秀徳副委員長（荒尾市観光協会会長）、高橋伸佳（JTB総合研究所所長）、高木洋一氏（荒尾商工会議所会頭）、西川幸一氏（荒尾漁業協同組合代表理事組合長）、前田和隆氏（熊本北部漁業協同組合副組合長）、迎五男氏（玉名農業協同組合支所担当理事）、古城義郎氏（荒尾市農業委員会会長）、江寄大作氏（荒尾飲食店組合組合員※代理出席）、内田保代氏（荒尾市食生活改善推進員協議会会長）、畑添美香氏（荒尾市女性人材バンク消費者代表）、久保明氏（独立行政法人都市再生機構九州支社都市再生業務部長）、北原伸二氏（荒尾市産業建設部長）

事務局：田中産業振興課長、高村産業振興課課長補佐兼道の駅整備推進室長、松本産業振興課参事、株式会社マインドシェア

関係部署：農林水産課、都市計画課、政策企画課

1.開会

田中産業振興課長が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2.欠席委員及び代理出席者の紹介

田中産業振興課長から、欠席委員及び代理出席者を紹介した。

3.委員長あいさつ

新型コロナウイルスの影響もあり、ご心配もなされる中、また、お忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。

ありがたいことに、多数のパブリックコメントが寄せられたことから、道の駅あらおに対する市民の方々の大変高い関心があるということでうれしく思う。

4.議事

（1）第6回委員会について

事務局が、資料１に基づき、第６回委員会の振り返り（主な意見）について説明した。

意見や質問等はなかった。

（２）道の駅あらお（仮称）基本構想（案）について

①パブリックコメントの意見等について

事務局が、資料２に基づき、パブリックコメントの結果について説明した。
内容について意見交換がなされた。

（主な意見）

○パブリックコメントの１番と２番の意見に関してであるが、道の駅あらお（仮称）における説明が十分でないことから、市民にきちんと理解されていない。スーパーやドラッグストアと同様に思われている部分があるため、シティモールと一緒にしたらよいなどの意見が出る。

市が建設する道の駅は、スーパーやドラッグストアとは異なる施設であることを説明しないといけない。また、なぜここの場所に建設するのか、ということも納得できるように説明する必要がある。国道に面した場所に建てたほうが良いという意見も多い。

【事務局】

⇒まだ、説明不足、情報発信不足であるため、引き続き情報の発信を行っていく。
○単なる情報発信ではなくて、納得のいく情報発信が必要である。差別化に関する部分や、整備予定地に建てる目的も説明しなければいけない。

○パブリックコメントの８番、公園と併設できる場所に建ててほしいとの意見があるが、基本構想（案）には、道の駅の建設場所と公園がだいぶ離れており、これは併設、一体化とは言わないのではないかと。

地域内外の人に公園でゆっくりくつろいでもらい、買い物もしてほしいのであれば、道の駅と公園は一体化すべきと思う。また、福祉施設の近くにできるというが、福祉施設と道の駅の関連性はあまりないように思える。

道の駅を成功させたいのであれば、歩いて行き来のできる場所、もしくは車から降りてすぐの場所にあるべきである。そうしないとどちらも機能しないのではないかと。

【事務局】

⇒公園との一体化に関しては、具体的なゾーニング等における検討事項として、意見も伺いながら検討していく必要があると考えている。

○パブリックコメントの人数が８名は少なすぎるのではないかと。それだけ市民は

関心が無いのかなとも考えられる。もっと多くの人から意見が欲しかった。
基本構想があまりにも大雑把すぎて具体化されていないと感じる。これでは市民の方々も意見の出しようがないのではと感じる。
寄せられた意見も小さな部分に対してで、全体像が見えていないのではないかな。
誰が経営するのか、運営の方法などもはっきり決まっていない。開業予定日などのスケジュールも決まっていないので、まだパブリックコメントとしての意見が出しにくいのではないかな。全てが基本計画で考えていくという方針であるため、もう少し具体的に示すことができなかったのか。

【事務局】

⇒基本構想については、方向性を示すものであり、当初から計画策定段階で明確にしていくことはお伝えしていたところである。
また、意見が出にくいという件に関しては、基本計画では、わかりやすい表現で、具体的に示していく。

○防災拠点ということについて、海沿いの立地で防災拠点はいかなものかと感じる。以前あった地震の時もみんな山手（内陸）の方に向けて避難していたため、防災拠点として機能するのか。考える余地があるのではないかな。

【事務局】

⇒熊本市や福岡県域など他の市町が被災した場合、有明海沿岸道路が災害時の緊急輸送道路の役目を担い、道の駅が緊急対応活動拠点としての機能を発揮するという意味合いも含まれる。
防災拠点の考え方としては、津波等が発生した場合等において、必ずしも、道の駅に避難してください、という意味ではない。

○道の駅にとって農業は重要な位置づけにある、事務局には2名ほど農業の専門的知識の長けた人がいるので、もっと意見を言ってほしい。

○夕陽がきれい、海がきれいというのは、荒尾干潟のみではない、有明海沿岸は、どこでもそうである。そこにこだわりすぎると、他の有明海沿岸に面するの道の駅との差別化が難しいのではないかな。

【事務局】

⇒有明海沿岸の景観は、確かに他の有明海沿いの地域も同様なので、差別化するための工夫が必要と考えている。

○なぜ道の駅が必要かと考えたときに、道の駅で販売するものとシティモールで販売するものは同じなのか、それは違うということを明確にする必要がある。

また、店側が売りたいものと、客側が買いたいものが一致しなくては、物は売れない。であるため、道の駅に立ち寄る人が買いたいものを売る必要がある。

パブリックコメントでの意見は、内容を参考に取捨選択しながら協議を進めていく必要がある。

AI や ICT など市民になじみが薄いと思うが、確実に 10 年後には浸透しているので、市民にしっかり説明を行いながら進めていく必要がある。

絶対に成功するように我々委員が前向きに考えていかなければいけないと思う。

今は、構想段階で運営主体なども流動的ではあるが、これからしっかり協議をしていく必要がある。

○商工会議所のほうに匿名で道の駅に関する要望書が届いており、パブリックコメントにも同様の意見を出したということである。潮湯や展望台など色々な意見があったが、今回の資料に入っているのか。

【事務局】

⇒その意見は承っている。潮湯、展望台に関しては、南新地地区全体の提案であり、本資料は、あくまで道の駅の敷地内に関してのパブリックコメントであるため、掲載はしていないが、ご意見としてお伺いし、庁内で共有することとしている。

○道の駅の整備には農業が重要であるという意見が出たが、有明海沿岸に整備されるため、もっと漁業者の方とも接して協議をしてほしい。そこで、事務局にお尋ねだが、今後どのようにして、6 次化も含め、海産物の取り扱いに関して協議をしていく予定であるのか。

令和 5～6 年くらいの開業予定であれば、今から漁業者の方々と協議し、準備を進めないと間に合わないと思う。

農業も同様に、今から作付けなどを行い、本当に売れるような品物に成っていくのは、3 年先くらいである。

【事務局】

⇒漁業者とは幾度となく協議を行っており、アンケートなども出してもらっている。農業者の方々にも、様々な意見を聴取し、生産量なども調査してきた。今後はさらに密なる協議を行いながら、売れ筋や、出荷時期・出荷量の情報の共有を行っていくよう努めていく。

○漁業者として、協議は密に行っている。アサリと海苔は、良いものを出せるし実績もあるが、6 次化に関しては、組合員も少なくなっているので、体力的にも取り組んでいくのは難しい。

長洲町は、海苔の乾燥を引き受けてくれる会社が進出し、生産者も非常に助かって

おり若手も増えている。長洲町の町長が直接お願いするなど、当初は大変な部分もあったが、荒尾市でも是非取り組んでほしい。

○漁業者は、高齢化が進んで後継者がおらず、漁をする方も少なくなった。海苔とアサリとマジックは高齢者でも、そこそこ収穫できるが、漁船漁業は一人でできる作業が少なく、どうしても2～3名で行う作業が主体となっている。

漁船漁業として、一人でできる作業はないかなどのお話も行っている。例えば底引き網などでとれるが、市場に出回らない雑魚などを道の駅での販売が出来ないかなどのお話もある。雑魚を好きな方も多い。

ただし、底引き網を行うには県に申請を出して認可が必要となる。荒尾市の方で支援をしてもらえないか。仕事の範囲を増やしたいという思いは、多くの漁業者が持っている。

【事務局】

⇒県と協議を進めていきたい。

○道の駅を出口とすることで、商品価値が高まるような良い取組である。県の許認可等が必要であるなら進めていただきたい。

○今、コロナウイルスの関係で、飲食店は壊滅的な被害を受けている。道の駅に出店する上で、一番気になるのが集客となる。どのようにすれば、道の駅にお客さんが足を運んでくれるのが重要。

集客さえ伴えば、出店しても機能する。基本構想では、集客のための政策が情報発信、SNSやAI、ウェルネスなどで、理解はできるが、集客に対して、「これ」といった決め手となるものが無いような気がするが、その部分はどのように考えているか。

これから、SNSやAIは当たり前のことになってくるため、それらを活用した情報発信だけでは、集客は難しいのではないかと。

○情報発信・PR、マーケティング的な事はこれから必要になってくる。全体的なポテンシャルはすごく高いと考えているが、それをどのようにPRしていくか。ということを考えないといけない。

【事務局】

⇒SNSやInstagram、YouTubeなどのWebを活用した情報発信は当然のこととして行わなければいけないことであるため、しっかりとやっていく。

なぜ、道の駅にお客さんが足を運ぶのかに関しては、道の駅自体が集客ブランドとなっているので、道の駅の立地に関わらず、集客されることと想定している。

ただし、一度来てくれたお客さんが来続けてくれるかどうかは別であるため、来

訪者の望むものを調査し、様々なアイデアでお迎えすることが大事と考える。

○市外からの集客マーケティングの観点では、交流人口と関係人口の双方が存在する。特に、地方創生の第2期の関係もあり、今後は関係人口も新たな仕掛け・価値として考慮する必要があるのではないかと。

交流人口は、観光客に当たり、関係人口は観光以外の理由で特定の地域に多様な形で関わるものと定義づけられており、道の駅のお客さんも関係人口での集客要素があると考えられる。

3大都市圏のデータでいえば、地域外来訪者数の23%程度が関係人口と言われており、このような関係人口の拡充が重要となってくると思われるため、関係人口をもう少し深堀りすると新たな需要が見えてくるのではないかと。

関係人口には2つあり、一つは、ふるさと納税などを含む関係性であり、物販とつながるところがあるかと思う。もう一つは、関係人口の訪問型と言われるものである。訪問型も4つ類型があり、一つ目は直接寄与型、産業の創出や地域づくりのプロジェクトの企画・運営などであり、道の駅と絡んでくるかと思う。二つ目は就労型、道の駅などの施設ができることで、例えばテレワークなど遠距離から仕事をされる方が出てくるかと思う。三つ目は、参加・交流型で、地域の人との交流やイベントへの参加などがそれに当たる。四つ目は、趣味・消費型で、交流スペースができるのであれば、新しい人口が増え、飲食店などにも足を運ぶ方がいらっしやるのではないかと。

観光で来るか来ないか、買うか買わないかだけではなく、このような違う需要も含めて発信していくと理解も深まるのではないかと。

○パブリックコメントに関して、様々な意見を色々な切り口で出していただけたのは良いことと考える。しかしながら、まだ、きちんと道の駅整備の目的や効果などが伝わっていないことも事実としてあるようなので、事務局の言う通り基本計画の策定の中でしっかりと発信していただきたい。それによってさらに色々な意見が出てくるかと思うが、そこは市の方でしっかりと受け止めてもらいたい。現実性や具体性を詰めていくのが正に基本計画であると考えため、来年度は非常に重要な1年になる。

道の駅あらお（仮称）の場合は、通常の道の駅の整備とは異なる部分があり、それは、道の駅が単独で立地しているわけではなく、南新地地区において整備が検討されている温浴施設、アウトドア施設、宿泊施設などが道の駅を取り囲むように立地されることである。この点が魅力、強みであり、これらの集積した施設を道の駅でうまく束ねてもらいたい。

束ねる受け皿や機能を検討する上で、AIやVRなどの技術についても次から次

へとアイデアが出てくると考えている。何をするかも大切あるが、どのように機能させていくのかといった仕掛けづくりについても来年度以降見据えていただきたい。

また、このプロジェクトについては、有明海沿岸道路の延伸ということが大前提にあるため、関係自治体に協力をもらいながら早期着工を進めてほしい。

○自分の周りの人は、道の駅のことを知らない人が多い。知ってる人も道の駅あらお（仮称）がどんな施設なのかは知らず、整備されても、赤字になれば市民の負担になるのではないかといった不安やマイナスのイメージが先行した認識である。まだ、どんな意見を出して良いかわからない。

②パブリックコメントを踏まえた基本構想（案）について

事務局が、資料3及び4に基づき、パブリックコメントを踏まえた道の駅あらお（仮称）基本構想（案）について説明した。

協議の結果、答申することが承認された。

（3）来年度以降の進め方について

事務局が、資料5に基づき、来年度以降の進め方について説明した。

意見や質問等はなかった。

6.閉会

田中産業振興課長が、閉会を宣言した。